

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成29(2017)年  
4月号

通巻560号  
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成29年4月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷製  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



創建大正9(1920)年4月15日当時からの旧大倭神宮

矢追隆家のお名前だった頃の法主様の撮影(文・7頁)

平成6(1994)年4月23日 月次祭法話より

## ものの考え方を改める — 昭和維新の比登柱について —

法主 矢追日聖 (満82歳)

大倭の月次祭に天からのおしめりが来るといふのは、非常にいい日だと、ありがたいなあと思っております。若葉がだんだんと伸びて新緑の季節になってくるし、また現在流行している風邪も和らいでいくだろうと思っております。

この間から私の家内も風邪ひいて、だいぶ咳をしています。季節の移り変わりによって体力も変化するので、人によっては風邪をひくような形で出る人もあるだろうし、持病がある人は持病が出てきたり、何かの変化が出てくる。それは、たいてい昔から春先という事になっておるんで、やはり季節の変わり目にはお互いに気をつけたいと思います。

まじつりとは、まじつり

今日は4月の月次祭でございまして、この「まじつり」という事は、まじつりうていく、という言葉なんです。肉体の持っている我々も、霊界の人達に対してまじつりうていく。また霊界の人達も、肉体の持つておる我々にまじつりうてくる、というように両方が合併する事によって、新しい雰囲気が出てくるのがまじつりの場なんです。

日本の国は昔から、霊界の人はみんな高い所に居てえらい人で、何か知らんけれどもタカマノハラから降って来たような事を言うんですけれども、私の見ている霊の世界というのは、別にそんなえらい人じゃないですよ。今の人は文化人です。昔の人よりも成長している。

昔の人は学問も少ないから科学のようなものも無かったしね。

いろんな時代に生まれてきて、何かして死んで靈魂だけが何万人か何億人か、みんな霊界に居るんです。言い換えますと、肉体の無い人間が霊界人なんです。肉体を持っておりませんから一定の場所というものは無いんですが、地球のどこかにみんな入っている。

皆さん方、一人一人のご先祖さんをさかのぼっていくと、何億というご先祖さんをみんな持っているんですよ。その人間にまつろうておる血のつながった人達、いわゆるご先祖さんと我々どが交流するのが、まつり、なんです。

## 霊界人と遊ぶ

皆さんは、大倭でおまつりをするというと、向こうの板の間には三方がぎょうさん並んであつて、こつちは畳で仕切つてあつて、何か神さんとか昔のえらい人はみんな奥に居るんやろうと思つてるかもしれない。ところが、霊の世界はそんなところに滅多に居りませんよ。

これはお供えしてあるんです。霊界の人は何万人居つたか一粒のお米さんで全部用足りるんです。我々が食べているのと同じように、霊界の人達も生きておつた時代には食生活しとつたんですから、そういうものをお供えしてある。

そして、おまつりの時に霊界の人達はどこに居るかという、肉体の持つて居るあんな達もこうして集つておるように、あんな達に縁のある霊界の人達もみんなここに集まつて居るんです。

まつりの始めには、霊界の人と現界の人が、これからお遊びしましょうという最初の礼儀として聖歌を歌つてみたり、何か言葉でムニヤムニヤ言

うけれども、これは霊界の人達に対しての慰安の言葉なんです。何もお経あげて霊界の人を救うとか、そんな話やないんですよ。

霊界の人はあんな達の中に居るんやから、お供えやお花はこつちに向けてあります。もし霊界の人が向こうに居るんやつたら、向こう向けてまつらないかんわね。ところがお花でも、三方にのせてあるものでも、みんなこつち向きにお供えしてあるからあんな達にも見えてますわな。霊界の人は心だけで物体はありませんけれども、霊界の人もお供えしてあるものを見て、食欲というか食べるものに対しての満足感があるわけです。

おまつりは、まつろう、両方で遊ぶという事から、始めに一つの儀式のような形はしますけれども、それはお遊びの最初の司会と一緒なんです。だからこれから後は、霊界人とのお遊びなんです。好きなこと喋つて、歌もうたつたらいいし、三味線ひいても、太鼓叩いてももうてもいいしね。霊界の人もそういう事はやっぱり喜んでくれます。何も拝殿はおまつりしておる神聖な場所やとか思う事いらんねん。肉体の持つて居る人間と、肉体の持たない人間が、ここで一緒になつて遊ぶ場所やから、その遊ぶ方法においては、みんなが楽しむような遊び方をしたらいいわけや。中には小難しいような話をする事があつても、これは精神的な向上をはかれて非常に結構なんです。あんな達もそういう事を認識して、楽しんでくれたらいいと思います。

## 昭和維新の比登柱（人柱）

「黎明大倭」の一番最後で昭和維新の比登柱という歌詞がありますね。あれは例えば、三方のお供えは、霊界人がみんなここに居るからこつちに

向けてあるという、そういうものの考え方が維新という事で、ひっくり返るという意味なんです。

今までは、神さんつかまえて、頭下げて頼んだら何でも言う事聞いてくれるとか、ちよつと賽銭放り込んでいて、我々の奴隷みたいに何せい、こうせい、試験合格させい、病氣治せという、そういうものの考え方なんですよ。

大倭の霊界人は、賽銭箱置いて、投げ銭みたいなそんなあほな事するな、河原乞食みたいな事せんとしてくれとおっしゃる。

あんな達もどこの官幣大社行つてみ、神主がきれいなもの着て、杓持つてね、神々しく祝詞を唱えて、神さんはえらい人やと思つて、一生懸命やつて居るけれども、相手はそんな人達と違うんですよ。あんな達と同じ事やないか、ただあんな達が幸せに行つてくれたらそれでいいんやと言うような、ご先祖さんはみんなそんな人達なんです。

お宮さんに祀つて居る神さんはえらい人みたいに思うけれども、我々と同じようにメシ食うて生きて、男と女と夫婦が仲良く寄つて喜んで、子供も産んで我々とちつとも変わらない、同じ事してきた人やねん。ただちよつと時代が先に生まれて先に死んだというそれだけの相違なんですわ。我々の大先輩から尊敬する事は非常にありがたい。けれども平等なんです。我々と同じ位置においてこの祭壇みたいに段差は無いんです。身近な我々と同じ事なんですわ。

お宮さんでもどこでも、霊界に対して、祀つておる対象に対しての認識、考え方が根本から間違つておるんです。あまりにも距離があるような考え方をするのは最もいけない。

そういうものの考え方を翻すというのが昭和維新なんです。昭和の時に出生して今ここでやつてるんやからこれは昭和維新。維新というのは改ま

るっていう事なんやからね。

比登柱というような恐ろしい言葉を使っていると  
思いかも知らんけれども、比登柱の「ヒ」という  
のは霊界人の事を比て言うんです。「ト」とい  
うのは我々肉体持つて人間のをトというんで  
す。ヒとトなんです。その二人が一つの柱になっ  
て、ものの考え方を交えていこうやないかとい  
うのが昭和維新の比登柱という言葉なんです。だか  
ら犠牲になるという意味では全然ないという事を  
あなた達がよく心得て欲しいなと思います。

今日はそういう意味で、霊界の人達、皆さん方

## 追悼の記

### 花子BABY'S

兵庫県明石市 水島 照美

年末の直会演芸会で何度か演奏させて頂いた花  
子BABY'S「花子りん」と水島誠は2013  
年に結婚した夫で、音楽のパートナーである。彼  
が50代半ば私が40代になろうという時に恋に落ち  
た。何歳になっても、純粹な恋愛期間は十代と変  
わらずときめいてドッキドキ。そんな私だけだ  
ったのかと思ったら、先日夫の日記を読むと恋に  
揺れる少年がおろおろと任んでおり、そんな夫に  
もう一度恋している。夫の日記を覗くなんてルー  
ル違反だけれど、今は叱られることもない。

というのは、彼は2017年3月5日にカラダ  
を返し霊界人の仲間入りをしてしまったのだ。面  
白いへんてこなヒトだったけどカラダ返してなお  
愛おしく、いつも共に在るもう一つの結婚のカタ  
チか？とも言えるような感じで暮らし始めたこ  
ろである。

「死んだ」ことは分かっているが、私は彼が死

のご先祖さん達と遊ぶという日なんですから、我  
々だけが遊ぶんやなしに、霊界の人達と我々と共  
に遊ぶという気持ちで時間をとってもらったらあ  
りがたいと思います。

いつもは、毎月発行している『とおやまと』を  
読んでくれるんやけれども、ここに書いておる内  
容は私の遺言のようなものですから(平成6年3  
、4月号「私の言っておきたいこと」、声出してフ  
ニャフニャと読んでもらうたらあかねん。家へ帰  
ってゆつくりと時間がある時に味おうて、噛みし  
めて読んで欲しいと思います。(文責・編集部)

んだということにまだ実感が湧いていない。とい  
うより、実感として捉えないようにする私自身の  
ココロの動きが強いというのが正直なところで、  
頭で分かっていたら心は納得するものでもないとい  
うことを身をもって感じている。今後しばらく、  
折にふれ問答を繰り返して、私は私で気持ちをおさ  
めていくことになるのだろうし、「死」に対して  
の固定観念が全くない3歳になったばかりの娘  
が、どのように娘自身の中に父の居所を作ってい  
くのか、なるべく邪魔をしないように見守りなが  
ら、幼いとはいえ彼女の一番納得のいく父との関  
わり方を応援していきたいと思っている。

まこりんが体調下降気味を意識して最初に受診  
したのは2016年の夏だった。肺がんが疑われ  
たが重複する精密検査では肺がんの可能性が低か  
ったこともあり、本人の決断でそのまま病名確定  
の検査を受けることをせず暮らし続けた。でも安  
心というよりは、できることをタイミング良くや  
ろうという気持ちがいっぱいあったので、本能的に  
私もまこりんも命が短いことを知っていたのかも  
しれない。夏は親子で初の海水浴、ペランダでキ  
ュウリ収穫、秋にはイモ掘り、毎週末はお弁当作

ってハイキング、2人ゆかりの青梅間修院へコン  
サートの旅、遥香<sup>はるか</sup>の七五三、冬には飛行機でデ  
ズニランド、クリスマスもお正月も家族で過ご  
し、亡くなる1カ月前には淡路島に遥香の3歳お  
祝いの旅行、倒れる前日は遥香の保育所の発表会  
に行き、終了後遥香と園庭でたくさん遊んだ。

水島誠と照美で演奏する「花子BABY'S」のラ  
イブは、12月23日大徳紫陽花邑の日聖祭直会演芸  
会が最後となった。

2月半ば、高熱を出しインフルエンザかもとい  
う診断だったが1週間しても解熱せず、紹介され  
た病院で即入院となった。肺がんの疑いだった。  
予想はありながら受け入れがたい現実だった。入  
院して5日目に容体が悪化し、お別れと感謝の言  
葉をお互いに伝えあう夜があった。奇跡的に持ち  
直し、その後1週間、2人で病院の個室にお籠り  
した。雑多な家事から離れ、職場にも夫の命の総  
仕上げなのでという理由で休暇宣言し、遥香の育  
児を保育所と友人を信頼して委ねた。

残りの時間大切にしたいことは、洩れることな  
くこんこんとわき続けるお互いへの想いを肉体が  
あるからこそその方法で、遠慮せず注ぎあう時間と  
場だった。「恋人に戻ったみたいだな。こういう  
時間が最近なかったけど、大切なことだな」とま  
こりんは言った。たくさん話した。愉しかったこ  
と、大変だったこと、お互いの好きなお話、困  
ったところ、家族になれてうれしかったこと、子  
どものいる暮らしは本当に幸せだったこと。私を  
歌姫に育ててくれたのは、まこりんともこりんの  
唄たちで、まこりんとまこりんの唄に新しい息吹  
を吹き込んだのは私だということ。いのちの終わ  
りを受け入れる準備をしながら、奇跡も信じなが  
ら。たくさんたくさん話しをした。

私はまこりんが入院してから一度も折る気持ち

になれなかった。かなしいほどに祈りのことばが見当たらないほど、自然なことが起きていると感じたからだ。でも、いのちが10時間を切った頃、無性に祈りたくなり真剣に心をこめてお祈りをした。まこりん自身の最善がつくされますようにとお祈りした。

そのような状況でも、いつも夢と現実が入り混じってる感じで、なんだかすべてがお笑いで「なんちゃって〜」と元気に起きてギター弾いて唄ってくれるんじゃないかとも思っていた。最期の時は、まこりんの腕に遥香がべたべたとシールを貼って遊ぶ中、無言の約束をしていたとしか思えない人たちが、さーっと集い最期のひとときを見届けた。

亡くなった日の夜、早々と友人を通じて霊界通信が届いた。2度目の未亡人にさせてごめんとして詫言した後、神様はどうして何度も私をいじめるのか、泣かせてやりてー。神様のバカヤロー。というくだりがあり、まこりん流の愛情を感じて、泣きながら大笑いし、おおいに癒され、まこりんがそばにいることを確信した。

葬儀の朝、親子3人水入らずで白雪王子のように棺に入り目を閉じているまこりんの傍らに椅子を運んでくっついて過ごした。遥香はゆで卵をむいたりバナナの皮をむいてまこりんに見せて彼女の思いつく限りのコミュニケーションをしていた。火葬の為移動する車の中で遥香に「どこいくん？ おとうさん病院に行くん？」と聞かれた。

「おカラダを返しに行くのよ。おとうさん今日がおカラダ返す約束の日だったんだって。おカラダ返した後はいつも遥香のそばにいるし、いつでもお胸の中でお話できるよ」

まこりんは、名義変更が必要な財産は残さなかったが、3歳になる遥香とたくさんの唄……未来

につづくタカラモノを残した。たくさん唄をつくらした。作り方は独特で、ため息つくように、おならするように、うわっ出てきちゃったーと慌てて録音する最初の音源は、何処の言葉か分からないような宇宙語とも言えるへんてこりんな歌詞（ともいえない音）がついており、聞き直しながら仕上げていくことが多かった。仕上げにかかる時間は唄それぞれで、1日か2日でカタチが見えてくるものもあれば、3年越しという唄もあった。私を知っているだけでも100曲超の曲を作っているが、多分もっとあるのだろうと思う。

一緒にユニットを組んで丸4年。1000年先まで響くと実感できる作品が仕上がるとき、またはライブで表現している時、自分たちには測り知れない多くの存在の後押しを感じる瞬間があった。時空を超えたチームメイトとリレーに参加する中、自分たちにバトンが廻ってきていて、走っているような感覚があった。1000年先まで響くと自画自賛の曲の一つ「遙か記憶たどる旅路へ」の原型を聞いた時、古代から未来までの場の記憶に同調して生きている自分を感じた。古い歌を添えたくなり、八重山古謡の一節を挿入し、ぐっと臨場感が出た。

つくいとていだとうや ゆめみちとおりよる  
(月と太陽が同じ道を通るように)

うらとばんとうや びとみついありたぼり  
(あなたとわたしも ひとつのみちをゆきたい)

【遙か記憶たどる旅路へ】

この曲は花子Baby's 2枚目のアルバム『はるか』の冒頭に入れた(宣伝です)。

遙か記憶たどる旅路へと／遙か記憶結んで歩いてく／声にさそれ今この瞬間を／魂ゆれる／街並みの中勇気が躍る／魂ゆれる／街並みの中涙がゆれる／港の風に／風にさそれ小高い丘で／風

にさそれ立ちつくすだけで／魂ゆれる／街並みの中勇気が躍る／波に流され／明日へつなぐ／笑顔がゆれる／笑顔がゆれる／魂ゆれる／声にさそれ／風にさそれ

うらとばんとうや びとみついありたぼり

遙か記憶たどる

旅路へと／心よぎるあなたへの思いは／誰が為の哀しみなんだろう／誰が為のやさしさなんだろう

さて、この原稿を書いている今日は4月2日。まこりんを送って1カ月になろうとしている。

遥香は保育園では安定して過ごしているとのことだが、迎え後の車の中で「ねーおとーさん…それでねおとーさん…あのねおとーさん…」と喋り続けて、私にまこりん役で答えを求め。そうしてバランスを取ろうとしているのだと思う。

私は仕事を再開し、心も体もいくつものことを同時進行にすすめねばならない暮らしの中で、低空飛行を心がけている。中心は遥香なので、家事は潔いあきらめと優先順位の選択をせまられる。桜が完全に散り、新芽がもりもり芽吹く頃には、音楽活動を再開しようと思う。

水島照美は、唄ってこそなので。

ああ……これから私どうなっていくのかな。まあ……ぜったいに大丈夫ってことは分かっているだけ。という2017年春。



こもれる魂魄の地を訪ねて (第46回)

義仲と芭蕉

兼田 隆

「月日は百代の過客にし、行かふ年も又旅人も」(月日というのは、永遠に旅を続ける旅人のようなものであり、来ては去り、去つては来る年もまた同じような旅人である)。芭蕉の紀行文『おくのほそ道』の冒頭部分です。

江戸時代初期に活躍した俳人松尾芭蕉(1644~1694)は人生の大半を旅に費やしたと言います。生前、弟子達にある遺言を残して、大坂(御堂筋あたり)で51歳の生涯を閉じます(写真①)。「死んだあとには木曾殿の塚側に葬って欲しい」これが遺言でした。

木曾殿とは都より平家を西海に追いやった木曾義仲こと、源義仲(1154~1184)です。頼朝や義経・範頼とは従兄弟にあたり、義と情にあつた義仲を芭蕉は大変尊敬していたと言います。

私が義仲と最初に出会ったのは京都で学生をしていた頃でした。ある日、東山高台寺辺りを散策していると路地の入り組んだ薄暗い場所に、「朝日將軍木曾義仲塚」と書かれた首塚(写真②)を発見しました(現在は八坂の塔に移設)。以来、私は義仲魂魄の地を東奔西走することになります。

木曾義仲のヒストリー&エピソード

義仲は武蔵国(埼玉県嵐山町)で生まれています(写真③)。2歳の時、源氏同士の内紛で父を失い、敵であった齊藤実盛の手引で信濃(長野県)の山奥、木曾の里に避難します。1180年義仲

26歳の時、平家打倒の兵を挙げます。3年後の倶利伽羅峠の戦い(500頭の牛の角に松明を燃やしつつ平家を追い落とす)という火牛の奇計、写真④)、続く加賀篠原の戦い(写真⑤)で平家に大勝します。その加賀篠原の戦いでは、命の恩人齊藤実盛を家来が討取ってしまった、討取られた首を見て人目をはばからず涙を流したと言います。

江戸時代、芭蕉はこの地を訪れて「むざんやな甲の下のきりぎりす」と句を詠んでいます。また能の演目としても世阿弥作『実盛』として取り上げられ、現在では古戦場跡に銅像も建てています(写真⑥)。

東方より朝日が昇る如く勢いで、平家を都より追いやつた義仲のことを平家物語では朝日將軍(旭將軍)と呼びました。

朝日は昇れば、いつしか日は沈みます。平家を西国に追つた義仲は備中国(岡山県)水島の戦いで敗れ、京都まで退却します。その後、義仲軍を待っていたのは源頼朝の討伐軍(義経・範頼)でした。西に平家軍、東に頼朝軍と八方に敵をつくつた義仲はしだいに孤立し、瀬田や宇治などで迎え撃ちますが、いずれも大敗します。この時に有名な宇治川の先陣争いが起こっています。義仲が粟津(大津市膳所)まで退いた時に付き従っていたのは乳兄弟今井兼平でした。その後31歳で粟津にて討死します。これを見とどけた今井兼平も自害して果てました。享年33歳。

この後も源氏が源氏を討つという争いは続いています。

朝日將軍(旭將軍)木曾義仲が討死にして510年後、膳所(現大津市)義仲寺にある義仲の墓(写真⑦)の傍らには、芭蕉の墓(写真⑧)が遺言どおり立てられ、現在に至っています。

木曾殿と背中合せの寒さかな 鳥崎又玄



## 時の波蕩 番外編

### ◆波蕩とは波のように揺れ動いてしずまらぬこと。

三重県名張市 服部洋平

はつきりとは覚えていないのですが何年前かに、シェイクスピアの『マクベス』を読みました。シェイクスピアが好きという訳ではないのですが（私自身たいした読書家ではありません。念の為）、何かの本で紹介されていて「ちょっと読んでみようかな」と思い、読んでみました。その時は、「そんなに良い話かな。別に普通やん」と思いました。シェイクスピアといえば世界2位のベストセラー（ダン・トット1位は聖書です）。海を渡り翻訳され、日本でも読まれています。人類が滅びるその日まで残るであろう名作古典です。その世界的な名作古典が「この程度なのかな」という思いでした。ちなみに『マクベス』とは次のような話です（マクベスとは人の名前です）。

《スコットランド王国グラミスの領主マクベスは国王ダンカンには忠実で、「運命などには目もくれず」獅子奮迅に戦う猛将でした。鬼神のように戦場を駆けめぐり、国王ダンカンは、その戦いぶりを手放しでほめたたえます。マクベスは、国王の信任によくこたえる忠臣であり、今まで逆心など抱いたこともありませんでした。

マクベスが大勝利を収めた戦場からの帰り道、荒野で異様な声を聞きます。気がふれたような姿をした、この世のものとも思われぬ老婆3人が深い霧の中から、マクベスを3度呼びます。

第1の魔女 よう戻られた、マクベス殿！お祝い申し上げます、グラミスの領主様！

第2の魔女 よう戻られた、マクベス殿！お祝い申し上げます、コーダの領主様！

第3の魔女 よう戻られた、マクベス殿！お祝い申し上げます、いずれば王となられるお方！グラミスの領主とはまさに自分のこと。しかし、コーダの領主とはどういうことだ？ 首をかしげるマクベスの元に、王からの使いが来ます。国王はマクベスの武勲を喜び、マクベスをコーダの領主にします。老婆の声が現実になります。

そして第3の魔女の声は、「いずれば王となられるお方」と。これまで王になりたいなどと考えたこともありませんでした。しかし、ひとたび「いずれば王となる」と耳に吹き込まれると、マクベスの心は大きく揺らぎます。自分の方が国王にふさわしいのではないのかと。

魔女に運命をささやかれたマクベスは、妻とともに計らい、国王ダンカンを暗殺し、王の座に着きます。国内では、マクベス夫妻の犯罪であることを疑って離反する者が相次ぎますが、マクベスは邪魔者を切り倒し、暴政のかぎりを尽くして権力者の地位を固めていきます。

マクベスをけしかけて国王を暗殺させ、弱気になりがちな夫を支えてきたマクベス夫人が、だんだんおかしくなり狂気に襲われて亡くなります。そして、マクベスも離反したスコットランド貴族マクダフに殺されます。』

という話です。私は最初この話を讀んだ時、「野心を抱くと、大恩ある人を裏切ると、権力に目くらむと、悲劇的な結果になる。悲惨な末路を迎える」という話だと思っていました（結果的には、そういう話なのですが）。

しかし、この作品の主題は、別の所にあつたのです。最近、ある人の『マクベス』解釈を読み、愕然としました。「この話、そんなに良い話かな」と思っていたのが、「この話は、まぎれもなく名作だ」という思いに変わりました。「野心を抱き、大恩ある人を裏切ったがゆえの悲劇」ではなく、「他者の欲望が自らの欲望になったがゆえの悲劇」だったのです。どういうことかと言うと例えば、今まで全くやりたいとも欲しいとも思っていなかったのに、友人が出世した、結婚した、大金を手に入れた、車を買った、何かを始めた等々、……。それを見て、自分もしたい、欲しいと思ってしまう。私を含め、ほとんどの人が経験しているのではないのでしょうか。

他者の欲望が自分の欲望になってしまう。マクベスは、国王ダンカンに忠実で、国の為民の為に命を懸けて戦うことが出来る男の中の男でした。しかし、魔女に運命をささやかれ自分を見失ってしまいます。「王になりたい」他者の欲望が、自分の欲望になってしまったのです。これは本当に名作だなと思います。

他者の欲望とは何でしょうか？ 自分の本当の気持ちとは一体何でしょうか？ 私達は、他者や周りの環境に左右されながら生きていると思います（良くも悪くも）。私は日本で生まれ育ちましたが、他の国で生まれ育っていたら全く別の考え方を持って生きていたと思います。他者の気持ちなのか、自分の気持ちなのか。本当の所は誰にも分からないのではないのでしょうか。そんな事を考えてしまいます。

今年の正月に林修三さんから頂いた年賀状に、こんなことが書いてありました。「世の中何があっても淡々と『神ながらの道』を往きたいものです」。良い言葉だなと思いつつも読み返し、正月からとても良い気分になりました。

他人の気持ち？ 自分の気持ち？ 本当の気持ち？ 神ながら……。神ながら……。

表紙写真について

大倭神宮の撤去命令とその顛末

大阪府枚方市 林 修 三

大本宮拜殿の奥、内陣に向かって右側上方に掲げられている一枚のモノクロ写真を皆様は記憶にとどめておられるでしょうか。木立の中に立つ燈籠と小さな鳥居も見える、鎮守の杜の小さな社の様なたたずまい。この写真は？

実はこの写真の額の裏には、法主直筆の左記の記述が書き添えられてあります。

大正九年四月十五日

父隆蔵ノ創建御社殿

昭和十五年六月二十四日皇紀二六〇〇年

公認神社ニ紛シテ理由ヲ撤去命令

学務部長奈良県書記官中川金正

警察部長奈良県書記官橋爪清人

命令通り条件付にて

八月下旬撤去せし

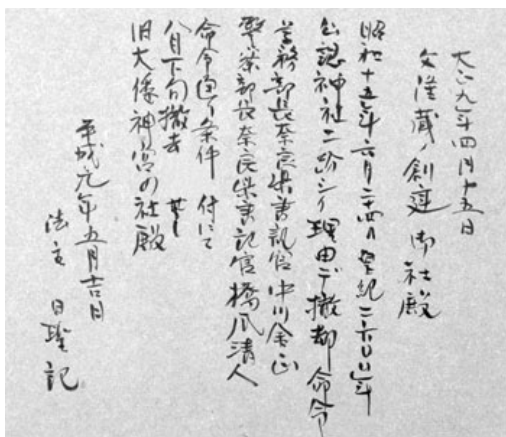
旧大倭神宮の社殿

平成元年五月吉日

法主 日聖記

この記述には三つの日付が記載されており、それがこの写真の意味するところを表している様に思えます。

先ず最初の日付、大正九年四月十五日といえ、野草社刊の法主の著書『ながそねの息吹』の279頁に、この書名の元となったと思われる「長曾根に息吹くヤマト古代人の魂魄」の一章があります。その意味でこの章は法主にとって特に重い意味があったのだと拝察されますが、その冒頭は以下の文で始まります。



《大正九年（一九二〇）四月十五日は、大和小泉に祈祷道場を開く遠山国子法華行者の神通力によつて、明治四年（一八七一）頃から矢追家にまつわる私的因縁を解明し、悠久なる昔からこの神地で荒ぶる古代ヤマトの神々を鎮め奉つたという記念日に当たる。》

つまりこの日は、同著書の「一大事の因縁」に詳しい矢追家の方々の正に血の滲む様な苦難のもとに、法主の父隆蔵氏が劇的な改心を経て帰依をされ、ここに生母様と共に神仏習合による神仕えをされる転機となった記念すべき日に当たる事になります。

続いて記されている昭和十五年六月二十四日の日付については、先程の「長曾根に息吹くヤマト古代人の魂魄」のすぐ後に、次の様に記述されています。

《二十年の歳月が流れた皇紀二六〇〇年、国を挙げて国威宣揚の昭和十五年（一九四〇）がめぐってきた。まさに晴天の霹靂の如く、県から六月二十四日付（社兵第一八二三号）で、公認神社にまぎらわしいという理由で、大倭神宮の造営物一切を速やかに撤去せよという命令書が、富雄村長から私のもとへ届けられた。》

又、同283頁には、  
《六月下旬から二ヶ月余り、その善処対策に奔

走した。しかしその努力も空しく、八月二十四日、今日のうちに撤去しなければ行政執行するとう、最後の通達を受けた。幸いにも九月一日、二日の両日にわたり、令状の名義人、県学務部長及び警察部長と、八紘会代表責任者の立場で私は最終的対決を試みる事ができた。県のメンツを潰すのも酷とあって、私は交換条件を提案したところ、県は全面的に飲み込んでくれたので、ここにこの難題は円満に解決を見ることができたのである。早速、県が当初に指示した本殿、玉垣、鳥居、狛犬、燈籠、社号標一つ残さず綺麗に解体し終わった。》

の一文が見られます。この文中にある「（奈良）県学務部長及び警察部長」のお名前も、この写真裏には併記されていきました。

ともあれこの前代未聞の「大倭神宮の撤去命令とその顛末」は、いったん解体するが元通り復元する条件で決着を見、新生大倭神宮として新たに大きな役割を担って、めでたくもすぐに復活を果たしたのでした。

とはいえ法主にとっては只一つ、父隆蔵が生命を懸けた大倭神宮への思いの象徴としての神宮社殿の撤去については、情において忍び難きものがおありだったのでしよう。その思いが込められたのがこの写真であると思われまます。

残りの一つの日付、この文章を法主が記された日である平成元年五月は、故柴地則之さんをはじめとする多くの有志の方々のご努力で新拜殿が建った正にその時です。お聞きする所によれば、この写真を新拜殿に掲げて欲しいという法主自らの意向を受けたとの事です。法主のご両親への深い思いを秘めた一葉であると言えましよう。

その大正九年から後三年で百年を迎える事になります。

あじさい日誌

3月12日 祝会。久し振りに中村勝彦さん(三重県四日市市)が参加されました。

3月15日 大倭神宮月次祭。

3月16日 教務本庁の屋根洗浄・塗装工事が終了しました。

3月23日 大倭大本宮月次祭。午後4時から大倭会館で、前年度会計報告及び新年度事業と予算について大倭会役員会。竹内靖さんが下さっていた会計の交代が懸案でしたが、溝口富士夫さんに引き受けて頂けることになりました。

3月25日 F I W C定例委員会。午後、大阪で会合。6月に開

催するハンセン病フォーラム「それでも人生にイエスと言えるか?」について話し合い。

3月30日 午後2時から大倭病院会議室において大倭病院と大本宮一般会計の29年度予算会議が行われました。

4月1日 午前11時から大倭会館で反保隆臣さんの五十日祭が行われ、大倭墓地に納骨されました。

4月2日 韓国から故金昇允さんの弟の金昇彰さんと甥(兄の子)の顯珠さんが来日され、奥さんの弘子・長女順和さんの息子・次女順伊・次男宗輝・三男激輝さんと共に納骨をされました。午後2時から拝殿において高

第334回大倭会文化行事

明石に柿本神社を訪ねる

日にち 平成29年5月21日(日)雨天決行

集合 JR明石駅改札口 11時

交通 近鉄学園前駅9時06分発・快速急行「三宮行き」→鶴橋9時27分着→JR環状線に乗り換え大阪駅へ。5番線の、10時発・新快速「姫路行き」→JR明石駅10時38分着

◎もしくは、学園前駅9時06分発・快速急行「三宮行き」→10時18分三宮着→JRに乗り換え(徒歩少々)三宮駅10時38分発・新快速「姫路行き」→JR明石駅10時53分着

ルート 明石海峡を望む丸山の柿本神社へ(少し歩きます)。真下に明石市立天文科学館あり。食事は明石の魚棚にて。

問合せ 李章根090-9041-8634 / 湯浅芳郎090-6987-5847

山明美・中沢亜希子さんにより「紫陽花邑で舞い奏でる」が奉納されました。大倭は初めてという参加者も大勢いました。

4月3日 家族葬だった金昇允さんのお別れの会をと玄徳院さんのお声がけがあり、午後2時から墓前で15人ほどの方が五十日祭のお参りをされました。

4月4日 京都府宮津市の藤本宏秋・早苗夫妻と中学1年生になった翔大君と中学3年生の天音さんが来邑されました。

4月5日 神奈川県大和市の永飯まゆりさんのメールに「朝ウグイスの声が心地よく」とあり、あれ紫陽花邑のウグイスは?今年、聞いた人がいますか?

4月6日 大倭神宮月次祭。邑の桜が満開になりました。夜、大倭会館で邑倭の会。

4月7日 雨予報だったがパラパラ程度、暖かく桜も見頃という西斎庭で、昼から大倭印刷(株)のお花見会が開かれました。

4月8日 午前11時から大本宮拝殿において須佐緒祭が行われ、祭典後は大庇で満開の桜を前に口祭り。夕方頃までゆっくり遊ぶ人達も居ました。

高杉葵さん(神奈川県横浜市)が大倭墓地にあるご主人の墓参のために来邑。同行の友人と共に須佐緒祭に参加、大倭会館に一泊されました。

4月9日 祝会。久し振りに廣瀬雅雄さん(大阪府枚方)が参

加。廣瀬神社(奈良県河合町)の「廣瀬講」に参加してきたとのこと。また枚方・交野の史跡・名所を日本遺産にという「天の川・交野ヶ原プロジェクト」について熱く語られました。

卒業・入学 青山美子都さんが大学卒業。柿本順誠君が小学校へ、中村飛翔君が専門学校へ、吉田彩夏さんが短大へ入学。

アカハナワラビ

教務本庁の東側、ポストの下に勝手に生えたもの。川端一弘さんに聞くと、シダの一種で珍しいものだという。枯れているのでなくこれが花だとか。(房)



大倭安宿苑では

3月22日 午前10時半より大倭墓地で慰霊祭を行いました。

4月3日 採用、異動含めて21名に辞令交付式。その内、長曾根寮の新施設長に田中伸志さん、新副施設長に兼田隆さん、事務局の新総務課長に高石敬太さんが就任されました。

(菅原園) 3月13日 ホワイトデー行事。男性職員が女性住居者を茶菓でおもてなしました。

(須加宮寮) 3月16日 集会室で卓球大会。3月30日 作業納め会。改善に向けての話し合いやお茶で一年の労を労いました。(長曾根寮)

3月25日(特養) 日頃来て頂くボランティアさん6名にお茶や職員の出し物、花束で感謝会。

3月25日(デイ) 千寿会の5名の皆様が日本舞踊。(茂毛路園) 4月1日 創立9周年の記念日。豪華な昼食やカラオケ等でお祝いしました。(八重垣園)

3月16日 一人鍋の昼食やケーキで4名の方の誕生会。

あんない

\*月次祭(大倭神宮) 5月6日(土) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催第580回祝会 5月14日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

\*月次祭(大倭神宮) 5月15日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

\*月次祭(大本宮) 5月23日(火) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。